女性会連盟ニュース

ひ び き

発行：日本福音ルーテル教会女性会連盟

発行者：鈴木直子

第２２期主題「キリストが望んでおられる」～喜び・祈り・感謝～

主題聖句：テサロニケの信徒への手紙Ⅰ　５章１６節―１８節

ご　挨　拶

連盟会長　　鈴木直子

いつまで続くのかと思った暑い日々も過ぎ去りアドベントを迎えました。皆さま、心静かにクリスマスのご準備をしておられることでしょう。

今年は「ひびき 38 号」にてお知らせいたしましたように、小委員会制度を立ち上げました。①総・大会開催　②連盟役員選出方法　③ＴＮＧ支援　④サバ神学生支援の４部門について各教区ごとに担当します。9 月に開催した合同役員会(各教区長と連盟役員が出席)にて協議を始めました。すでに役員研修会議事録は各女性会にお届けしており、合同役員会議事録は今回お届けの「ひびき」に同封いたしました。分厚い議事報告となっていますが、ぜひお目を通していただき、各教会や教区で話し合っていただきたいと思います。

10 月には、サバ神学院から創立 25 周年記念行事と、併せて行われた卒業式にお招きをいただき、10 名の姉妹が神学院やバーゼルキリスト教会等を訪問されました。以下に初めてサバを訪問された姉妹たちや、8 年ぶりに訪問された姉妹の感想や写真を掲載し、友好の旅のご紹介をいたします。

サバ神学院を訪問して

連盟役員　寺嶋文世

サバ神学院創立２５周年記念式典、及び卒業式にお招きを頂き、連盟としては８年ぶりにサバ神学院を訪問しました。ケンピン先生はじめ多くの皆さまから手厚いおもてなしを受け本当に感謝でした。　初日の夜は、多文化の音楽会が催されました。バーゼルキリスト教会のミッションセンターから派遣され、宣教に出掛けている国々の民族衣装をまとった神学院の学生達(奨学金の受給生もいました)が、打楽器演奏にあわせて歌ったり、サバの伝統的な踊りを披露したり。“アジアは一つ”と感じ、とても楽しいものでした。

記念式典の礼拝は、各国から教会代表も数多く出席されました。来賓の州知事から「神学生を育てると共に農業指導も行い、地域の実情にあった指導者を育成して頂いていることにも大変感謝しています」とのメッセージがありました。州政府の要人がキリスト教の神学院の存在を認め、感謝をされていることに感動を覚えました。

連盟の皆さまに、ケンピン先生からメッセージを頂きましたのでお伝えします。**「このプログラムは 1993 年から始まり、20 年間支援を続けていただいております。会員数が減少していると伺っていますが、このように続けていただくことを感謝いたします。初めは、２名の受給生から始まった支援が、今では８名に増えました。皆さんは、牧師を育てるという宣教の業に加わって牧師をお育てくださっているのです。これは決して忘れられない良いモデルです。私たちはこれからも宣教のために働きたいと思います」。**神学院や教会の積極的な宣教をする力に、学ぶべきところが数多くあると思います。これからもパートナーシップを築いていきたいと思いました。

サバ卒業式

札幌教会　近藤雅子

近年、リゾート地として発展著しいコタキナバル。そんな喧騒から遠く離れ、熱帯の木々が生い茂る山の中腹にサバ神学校はありました。
９月２６日、伝統的な楽器、“ゴン”が奏でる音楽と共に卒業式の式典が始まりました。
前日のコンサートでも同じ音楽が演奏されていたので我々の一行にもすっかり耳に心地よく響きました。千人ほど入るホールには卒業生の家族はもちろん、世界各国からの来賓が集まっていました。卒業生の顔にはこの神学校で学んだことへの誇りに満ちている様子で彼らが歌うのは、最後になるであろう校歌からも感じられました。

また、学長が卒業生一人一人の角帽の房を直してあげる行為にも細やかな愛情をうかがいしれました。

数年前にもこのサバ神学校の卒業式に出席したことがあるメンバーの一人は“以前はこんな立派なホールはなく、狭いスペースで踊りを披露して、背景画も生徒の手作りのものだった”と話し、２５周年を経て、建物が立派になったことのみならず、教育の内容も充実したことに感慨深げのようでした。

この神学校を卒業した神学生は宣教師としてイスラム社会であるマレーシア国内はもちろんのこと、近年では近隣諸国であるインドネシア、タイ、香港さらには東ヨーロッパにまで宣教の働きをしているそうです。そのビジョンの広さと行動力にも驚かされましたが、希望に満ちた彼らの清々しさに感動を覚えた式典でありました。

（奨学生リュウさんと一緒に）

（卒業生のコーラス、ステキでした）

（答辞を述べる奨学生のリーさん）

サバ神学校生奨学金支援

八王子教会　立石節子

真実を伝えることの困難さを覚えます。どれだけ意を尽くして表現しても、理解して頂くのは現地へ行かれてご自分で見聞して頂く以外、今まで奨学金を送り続けてきた真の意義を見出すことは困難に思います。それでも敢えて以下に書かざるを得ない思いです。

１０年程前の東教区会長会で、サバ訪問の映像記録を見たことがありました。ジャングルの中を小さなボートで、奨学生であった牧師のいる教会を訪問する映像だった記憶があります。その時は、大変な僻地まで伝道している牧師の生活の困難さを想像し、献金の奨学金がそのような牧師を育て、実際働いている姿に感動したものでした。

今、マレー人牧師が世界宣教へ送り出している赴任先の世界地図も掲示されているほどで、国内の牧師の数も単純計算しても信徒約４０００人に１人しかいません。

朝早くからスピーカーでコーランが流れるイスラム教国の中で、キリスト教はとても元気です。イスラム教国だからこそとも言えるのでしょうか。その中で牧師の養成が急務です。貧しいマレー人の家庭からの神学生、また家庭を持ちながら学ぶ神学生もいるとのこと、今も多くの奨学金が必要とされています。

私は、いま東教区女性会の会計を預かっています。ですから支出を抑え収入の道を見出しながら、どこかで接点を探しサバ神学生の為に奨学金を送り続けることを願っています。

おいで、おいで村においで！　八王子教会　渡理聖似

雨上がりの早朝、7 時 30 分、セントラル教会での礼拝に参加。この日の聖句はルカ：10 章 38 節～40 節がスクリーン上に英語で示される。会堂内は和気あいあいといった活気的雰囲気が漂っていた。楽器は青年たちにより、ベース、ドラム、ギター、電子ピアノ等が軽快な賛美曲を奏で、少女が歌う

午後はサバ神学校がご準備下さった「マリマリ観光」。マレーシア国内の 32 民族の中の 6 民族村の見学。マリマリとは「おいで」の意味。「おいで、おいで村」に行った。DUSUN 族はその昔、首狩り族。レプリカの頭蓋骨がぶら下がっている。米から作った酒（40℃位）。竹製のおちょこで試飲。生活の大半は竹製品を使用。竹細工製品は教会のゲストハウスで販売している。竹で出来ているトランポリン。竹のしなやかさに驚き、まだ自分の足に鹿のような屈伸力があることに感謝。

今なおボルネオの密林で宣教活動している中国系・マレー系牧師の働きがある。マレー系信者数 2 万 5 千人に牧師は 60 名。4 つの教会を兼務。今後も支援させて頂きたい。

さらに、サバ神学校からの「祈りの支援」が日本ルーテル教会には必要であると痛感した。サバ神学校のウイリアム先生兼牧師が言っていたが、ルーテル学院大生とサバ神学校生の交流をすべきである。

（竹を材料とした家屋）

（吊り橋の先は・・）

（コンサートでのマレーの踊り）

（ｶﾙﾁｬｰﾋﾞﾚｯｼﾞの人たちと一緒に）

（マレー教会・女性リーダーの方々と）

（200人の子ども達の施設）

グレース・センター（学校について）市ヶ谷ルーテル教会　浅野聖子

大通りから狭い道に入り細いガタゴト道を少し走ると、急に視界が開け広々とした更地が広がっていました。その先には平屋の建物があり近づくと実に明るく小綺麗でカラフルな学校が見えてきました。ここは、インドネシア、フィリピンからの移民が超過滞在をし、教育を受けることが出来ず成長した子ども達が間違った道に進んでしまうという社会問題を何とか防ぐため、そのような子ども達がきちんと教育を受けられるようにと始められたＢＣＣＭ（サバ神学院の母体となっている教会）が支援している学校です。ここでは小中学校の基礎教育、全人教育、パソコンや技

術家庭科等をしっかりと学び社会に送り出されています。2棟ある校舎の真ん中には、子ども達が描いた大きな世界地図の壁画があり、楽しい雰囲気が溢れていました。失礼ながら、「教育を受けられないでいる子ども達のための施設・・・」と聞き、さびれた建物と雰囲気を想像していたので驚きました。建物同様、明るい子ども達の笑顔が印象的でした。また、授業中にもかかわらず人なつっこく来客に応じる子ども達を、優しいまなざしで見守る教師の愛情の深さを感じました。別の教室の前では、英語のメモを片手に一生懸命諳（そら）んじながら、口頭での英語のテストに備えている生徒の姿に思わず「頑張って！！」と声をかけたくなりました。韓国、アメリカからのボランティアの学生、先生にも出会い、私たちにも出来ることは何かないかと思わずにはいられませんでした。

一粒の種の力

市ヶ谷教会　梅田満枝

私にとって８年ぶり４回目のサバ訪問でした。ここに来ると旧知の方々、また新しく出会う方々にいつも温かく迎え入れられます。皆さんが同じ主に繋がっている方々なので、滞在中は日本にいる時よりもキリスト者的な気持ちになれている気がするし、キリスト者であることの幸せを感じることが出来ます。そしてリフレッシュした気分で戻ってくることができます。今回初めて参加された方々は私が2001年に最初に訪問した時と同じような感動を持って４日間を過ごされたようでとても嬉しく思いました。

20年前に女性会が海外宣教のために始めたこの支援活動は、その間に多くの果実を結びました。その果実は今や、私たちが支援した神学生たちによってさらに広がりを見せ、サバから海外への宣教が始まっているのです。私たちが蒔いた一粒の種が大きな果実を生み、私たちの目的であった世界宣教に繋がっているのです。主に感謝です。これからもサバ支援を継続していくことによって、神さまのみ業を見ることが出来るのではないかと思いました。

皆さんが帰られた後、石原姉、星野姉と共にクダというボルネオ島の最北端、最初にキリスト教が上陸したという歴史的な町に行き、教会や聖書学校などを訪問。聖書学校で学んでいる若者たちは、経済的理由で神学校への進学は断念しなければならないといいます。これらの若者たちのためにも支援を続けていけたらいいなと思いました。

今、連盟が目指していることは・・・

① 冒頭の鈴木会長の挨拶にもありますが、4つの小委員会を各教区に振り分けて発足しました。これにより今後の連盟の課題を全国の皆さんと考えていきたいと思っています。

② 被災地と共に歩んでいきたいと思っています。一方的な支援でなく、両方向からの学びと交わりを目的としています。まずは「仮設追波川河川団地」の布草履作成のためのＴシャツ集めに多くの教会が応えてくださいました。11月時点で東教区８箱、東海教区３箱、九州教区１箱を送りました。北海道特別教区と西教区は教会単位で送っていただいております。送り先の場所が手狭なため、教区止めになっているものもある状態ですが、先方の依頼により順次送る手はずになっています。ご協力感謝いたします。

今後の連盟の予定　12月　クリスマスカード発送　国内７３通・海外１１通
1月23日(木)　会計監査（女性会連盟事務局）
1月28日(火)～29日(水)　第6回役員会開催（女性会連盟事務局）

（連盟書記　野村加寿子）